

栄養価の高い飼料用稲 「たちすずか」で高品質牛肉生産を達成



～ 肥育牛には遅めに収穫した「たちすずか」がオススメ ～

連携機関 | 近畿中国四国農業研究センター, 株式会社タカキタ, 岡山大学

研究期間 | 平成21～27年度[競争的資金研究] (独)農研機構・近中四農研交付金プロジェクト研究(平成21, 22年度)
現地実証等事業(平成23, 24年度), 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業(平成25～27年度)

研究開発のきっかけ

- ◆ 飼料用稲には和牛最大の特徴である霜降りを入りにくくする β カロテンが豊富に含まれていることから、肥育牛への給与は控えられていました。
- ◆ 飼料用稲を給与して高品質牛肉を生産するには、 β カロテン含量を下げる必要がありました。

研究成果の概要

- ◆ 本県で全国に先駆けて栽培・利用が広まった高栄養価の飼料用稲「たちすずか」は、従来の飼料用稲では倒れてしまう11月下旬から12月上旬まで収穫を遅らせても倒伏しません。
- ◆ この低温期に収穫することで β カロテン含量が大きく下がることを確認しました。
- ◆ 肥育牛の飼料として一般的に使われている稲わらと比べ、 β カロテン含量は同等(3mg/kg乾物)で、栄養価は約1.2倍優れています。
- ◆ この「たちすずか」を食べて育つ肥育牛は発育が早く、その肉質も非常に優れています。

従来の収穫適期
10月～11月上旬



β カロテン含量が高く、
(63mg/kg乾物)
肥育牛には適さない

収穫を遅らせて
11月下旬～12月上旬



β カロテン含量が低下し、
(3mg/kg乾物)
肥育牛に適する

肥育牛に
給与



霜降りの入った
高品質な牛肉！

研究成果の活用状況

- ◆ TMR技術(飼料を予め全て混合したものを食べさせる技術)と組み合わせて効果的な成果の普及を図っています。
- ◆ 「たちすずか」の収穫期間が12月上旬まで拡大できることで、収穫機1台当たりの稼働率が向上したり、栽培面積をさらに拡大したりできるメリットもあります。

問い合わせ先 | 畜産技術センター 技術支援部 | TEL 0824-74-0332